



よく使う日本語

**形は、色は、大きさは、おもさは、さわると、【観察】
たぶん～だと思えます。【予想】**

基本的な流れ

指導のポイント

1 先生がシルエットクイズの問題を出し、児童が答える。(聞く・話す活動)

○先生が懐中電灯でシルエット(影絵)を白い紙に映し、ヒントを出す。シルエットを用意できなければ、段ボールの中に物を入れるだけでもできる。



前から見たシルエット

後ろから見たシルエット

T:「これは何でしょう？」
T:「形は、丸いです。」
T:「色は、赤です。」
T:「大きさは、手くらいです。」
T:「食べると、あまずっぱいです。」
S:「りんごだと思えます。」

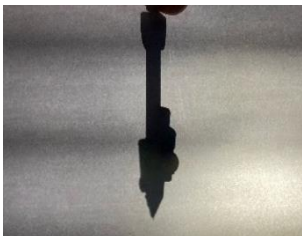


※高学年以上は、
・実物でなく、それを型どったペーパーサートにすると、いろいろな物が提示できる。(例えば、犬、車、飛行機など)
・児童に質問をさせてヒントを出す。「どんな形ですか?」「どのくらいの大きさですか?」「いつ・どこで使いますか?」など

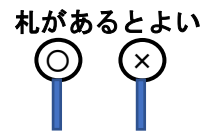
2 児童がシルエットクイズの問題を出し、先生が答える。(聞く・話す活動)

○1の活動の役割を交代する。児童が自分でヒントを言うことが難しければ、次のように先生の質問に「はい」か「いいえ」で答えさせるのもよい。

※教室にある物などを先生に見せないようにして、シルエットを映す。




T:「食べられますか?」
S:「いいえ、食べられません。」
T:「どんな形ですか?」
S:「とがっています。」
T:「いつ使いますか?」
S:「算数で使います。」



※高学年以上は、
・自分でヒントを考えて言う。
・ヒントは具体的な数で答えさせる。(大きさは○cm、重さは○gくらい)

3 シルエットクイズの言葉を活かして、植物や動物の観察を書く。(書く活動)

○生活科で育てている、アサガオやミニトマトなど実物があるものが書きやすい。実物を見てから写真をとって書かせると、じっくりと観察して書くことができる。



形は、()
色は、()
大きさは、()
く
ら
い
で
す。

()
で
す。

()
で
す。

○観察を書く時によく使う語彙をいくつか用意しておく
とヒントになる。

観察を書く場面は、国語科の作文や日記、生活科、理科などたくさんあります。児童の実態や在籍学級での授業に応じて形式を変え、繰り返し取り組むとよいでしょう。観察の視点は、最初は先生が与えてもよいですが、児童オリジナルの視点が少しずつ出てきて、表現豊かに書けるとさらによいでしょう。